



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

## カメムシ類やキクスイカミキリの被害に注意!

### カメムシ類



幼虫・成虫が生長点付近の新芽・茎・蕾などを吸汁する。新芽が加害されると、葉が展開するにつれ、**小さな穴が空いたり、葉切れ症状や萎縮症状**となるため、商品価値を低下させる。蕾の加害では、**花が不整形に、茎が加害されると曲がり芯止まり**となる。  
暖冬の年は越冬率が高く、4~10月頃に発生が見られる。**圃場周辺の雑草が発生源**と思われる。

### キクスイカミキリ



体長0.7~1cm、黒色の細長い甲虫で触角が長い。4月下旬~5月中旬頃に、伸長したキクの**先端が日中急激に萎れ、枯死**する。被害部より下の部分では異常は見られない。成虫は生長点付近に**咬み傷**をつける。被害部は**1cm間隔で2段に切断**され、**内部に産卵**する。幼虫は茎の内部を食害しながら下方に移動し、根元で蛹化する。野外では、ヨモギやオオアレチノギ等で見かけることが多い。

**!** 防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません! ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください! **!**

時期	IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	11, 4	立枯病(リゾバ菌)	ユニフォーム粒剤	○	-	18kg/10a	土壌表面 散布	3回
生育初期	UN, M03	白さび病	ジマンダイセンフロアブル	○	-	500~800倍	-	8回
	23	アブラムシ類・アザミウマ類 ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	-	-	2000倍	発生初期	3回
消灯時	11	白さび病	アミスター20フロアブル	○	○	2000倍	発病初期	5回
	33	ハダニ類	ダニオーテフロアブル※	-	-	2000倍	発生初期	2回
発蕾時	39	うどんこ病・白さび病 アブラムシ類	ピリカット乳剤	○	-	1000倍 (うどんこ病:2000倍)	発病初期 発生初期	6回
	4C	アブラムシ類・アザミウマ類	トランスフォームフロアブル	-	-	1000~2000倍 (アブラムシ類:2000倍)	発生初期	3回
破蕾期	7	白さび病	カナメフロアブル	○	○	4000~8000倍	発病初期	3回
	6	アザミウマ類・ハダニ類	アグリメック※	-	-	500倍	発生初期	5回

**!** 地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては被害が発生する場合があります。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

※花き類・観葉植物登録

## フルボディ

NPK  
8-5-5

腐植酸(フルボ酸・フミン酸)→土壌の団粒化  
海藻抽出成分配合→根張りを良くして苗質を向上

**定植ストレス軽減・細根の発生促進!**

育苗・定植前 1000~2000倍 灌注・どぶ漬け



## マイキラーL

降雨後など  
温度の高い時に!

- ◆ ナメクジ類、カタツムリ類に高い防除効果!
- ◆ 接触により速効的に作用します!

花き類・観葉植物登録内容  
ナメクジ類、カタツムリ類  
400倍 6回以内

ナメクジは夜間に活動するため  
夕方の散布が効果的!!

